

なす

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
青 枯 病	植付前	○ ナス科作物の連作をしない。 ○ 長なす系統は一般に強い。 ○ 排水を良くする。 ○ 抵抗性台木を用いて、接木栽培を行う。 ○ 敷わらやマルチにより地温上昇を抑制する。
褐色腐敗病	生育中	○ マルチや敷きわらをする。
褐 紋 病	植付前 収穫後	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 遅播き・密植を避け、適期に播種する。また、雨よけをすると発生が少なくなる。 ○ 本病は梅雨直後の気温上昇とともに発病し、9月上旬ごろ多発する。 ○ 排水不良地や密植、窒素過多は発病を多くする。 ○ 被害株を適切に処理する。
菌 核 病	植付前 生育中	○ 床土は無病のものを使用する。 ○ 発病畑では、上層30cmの土壌と下層30cmの土壌の天地返しを行うのも良い。 ○ 床面にビニールマルチを行う。 ○ 発病株は抜き取って適切に処理する。
すすかび病	生育中	○ 葉裏にもよく葉液を付着させる。 ○ 被害葉は除去し、適切に処理する。
苗立枯病	植付前	○ 床土は毎年新しいものを使用する。 ○ 排水と風通しを良くする。
灰色かび病	生育中	○ 敷わらをして、果実が直接地面に触れないようにする。 ○ 多雨、少照、低温の年に多発する。特にビニールハウス栽培に発生が多い。 ○ ハウス内の湿度を高めないようにし、風通しを良くする。 ○ マルハナバチ訪花や振動受粉などにより着果させるとホルモン処理よりも発生が少ない。
半身萎凋病	植付前 生育中 収穫後	○ 抵抗性台木を用いる。 ○ 病原菌は多犯性なので新しい床土を使用する。 ○ 発病株は直ちに抜き取り焼却する。 ○ 発病畑では、全株を集めて焼却する。
モザイク病	生育中	○ 育苗期間中から媒介昆虫のアブラムシ類を防除する。 ○ シルバーストライプマルチにより有翅アブラムシの飛来を抑制する。